

免許状教科	中学校 1 種 (社会)・高等学校 1 種 (地理歴史・公民・商業)		
科目名	心身の発達と学習	科目分類	教職科目
			経済学科 <input checked="" type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択
英文表記	Mental/physical development and learning	開講年次	<input type="checkbox"/> 1 年 <input type="checkbox"/> 2 年 <input checked="" type="checkbox"/> 3 年 <input type="checkbox"/> 4 年
			開講期間
ふりがな	みつだ もとお	修得単位	2 単位
担当者名	光田 基郎	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用
授業のテーマ			
到達目標	思春期に至るまでの知性と人格の発達に注目し、人格-行動-学習の連鎖の形で展開する乳児期、幼児期、学童期と思春期のそれぞれの発達段階で直面する課題を理解し、DVD と心理査定の実技をも併用して母子関係、非行、不登校と拒食、障害児教育などの課題への対処を理解する。次に学習心理学という学問を通して、子育て、学校教育、キャリア選択と就職等を概説する。社会人の生き方 (take and give の人は未熟で褒められて舞い上がるゆえ、give and take が理想) の理解と、カウンセリングや心理査定など教育現場に必要な技法の基礎を知って、生きる力の育ち方を学んで教員や法務教官などの公務員としての資質を高めたい。教員の必要条件はバランス感覚 (個性と平等、職務と自分の感情、理想と現実などの平衡。妙に素直な態度の子に、今、何故悪い子が? と疑問に思う気持ちを抑えたら真実を見失う) と理解する。		
授業概要	電算画面の実験、調査と心理査定などの実技を併用した講義形式。毎週パワーポイント資料配布。		
授業計画			
第 1 回	乳児期の発達課題は無条件の依存を経験し、自分が母親か保育士にアピールすれば満足を与えられるとの信頼感と自己効力感獲得である。乳児は母親の声や視線を通じて愛情を感じる事が人間関係の基本と知る。逆に無視された無力感、自他への不信感について。親と離して育てたサルのDVDや大人不信の育ち方の非行児の例で学ぶ。		
第 2 回	乳児期の信頼感と自己肯定感の上に保護者、保育士や友人との関係で経験したよい経験、嫌な経験をうまく結び付けて信頼と自己肯定感を鍛えることが課題。その自己主張と他人を意識した自己抑制の平衡が幼児期の課題であり、そのための4歳児の喧嘩は必修科目と講述し、自己像の評定である交流分析テストで自己評定を実施する。		
第 3 回	学童期の課題は劣等感と自尊心の平衡。ドラえもののジャイアン同様にわがまま-劣等感-自己顕示欲-暴力、出来杉やしずかちゃんが良い子ゆえの世間知らずで衝動への常識的対処不能で不全感と羞恥心の過剰。独立欲求で過激派、不登校、成人女性への変身拒否の拒食と知る。ドラえもののび太と逆に強情-恥意識-独立欲求-健全な批判が健常児。ドラえものの登場人物全員が現在の学童の問題点の過剰表現ゆえに劇画になる現状を知る。		
第 4 回	思春期は明治維新と同様、内 (侍の経済から豪商の資本主義=性的成熟に対応) 外 (黒船が外交を迫り、国のイメージの明確化が必要=自分の将来像を考えて他人に対応する必要性) の変化に耐えて自分は何者か、どんな自分が理想かを具体的に理解して自己像 (過去、現在と未来を統合した自分のイメージ) 実現努力を迫られる。どの国も内外の混乱後に近代化する様に、この時期を乗り切り方で性格が決定。自己同一性検査実技で自分を知る。		
第 5 回	思春期の子は「自分自身を見る」立場を失い「見られる自分」に振り回される。「見る自分」が「見られる自分」を制御出来れば主体性は保てる。「見られる恐れ」に支配され、周囲の雰囲気は先取りは過激ないじめになる。非行少年の弱い自己像、言葉で衝動制御不能な状態を例示する。ニートのDVD とカウンセリング実技をも併用する。		
第 6 回	学童と思春期の課題としての家族：家族は相互作用システムであり、その人間関係は社会一般の人間関係と共通であるのが普通。DVD と描画テストを併用して家族画に投影された自己像を理解する方法を学ぶ。		
第 7 回	カラスが食物を得る動機で漁港交差点に集まって信号停車のトラックから魚を盗む習慣が出来て空腹と言う要求を低減する過程も学習の一例。DVD と電算画面上の実験を併用して学習転移、人格-行動-学習の連鎖を理解する。		
第 8 回	刺激-反応の連合による学習を考える連合説、認知構造の変化を説明する認知説の各々を基礎に、スポーツや教科学習のプログラムが出来た過程をDVD で学び、以前の学習が後の学習に影響する転移の実験で、鏡を見てメークする習慣のある女性は電算画面で上下が逆転する鏡映像描写の技能習得が男性より早い傾向から転移を理解する。		
第 9 回	記憶は知識と要求に従って過去の経験を再現する機能であることを数人 1 組の伝言ゲームや目撃証言の変容例での実験を通して理解する。記憶の上手下手は知識構造への組み入れ (記銘操作) と検索過程の巧緻化次第と理解して、記銘すべき情報を一時的に保持しながら (短期記憶) 構造化・図式化するための条件 (知識構造を用いた意味付けと類推) とその作業台 (作業記憶) の効率的運用 (情報の圧縮、分割して学習) の必要性を考える。		
第 10 回	思考の上手下手。認知-判断-反応の連鎖なしに「頑張ります」だけでは暴走か人の言いなりと信用されない。		
第 11 回	知能と創造性、知的発達の障害、多動障害の支援をDVD を用いて概説する。わずかの情報から多方面にアイデアを		

	展開する創造性(基本は拡散的思考)と知能の差、逆に唯一の答えを求める集中的思考と創造性の差などを概説し、知能や学力測定と統計的処理の基礎 (http://kogolab.chillout.jp/elearn/hamburger) など自習教材で実技予定。
第12回	課題解決における知識利用の発達及び、文章理解における類推について。源義経、補佐役に徹した豊臣秀吉の弟、無欲でも兄の側近と衝突して滅びた足利尊氏の弟などの説明文から「組織の副将は今の首領と一体化して次の首領の気配を消さねば滅ぶ」と類推、「源義経は英雄でも上記のダブルエラー」と理解する技能の重要性を知る。
第13回	思考意欲の発達と無気力：(1) DVD と TAT 図版を用いた達成動機(やる気)の測定を通じて、生理/心理的要求が具体的な達成行動を動機付ける事、失敗への対処次第で無力感を得る危険性を理解する。統計実技も実施予定。
第14回	集団思考への参加とその意欲の発達:4-5人の集団で課題達成する実験を通じて職場や生徒集団のリーダーは課題達成(performance)と集団維持(maintenance)能力が問われる事を理解する。
第15回	アクティブラーニング(学習者参加型):問題共有と動機付け(雄物川上流に江戸時代の大阪堺の墓石多数発見の理由は?)→本題(拡散・混沌・収束:北前船の揺れ止め重石だ)→気付き(コメ本位の侍の経済から紅花、木材と銅鉱石などの特産品を都会に運んで大量に売買する大阪商人主導の資本主義への移行)などと具体的に理解
第16回	定期試験(論述型一瞥視庁採用試験で「真実」について600字書かせ、当日午後の面接で徹底的に内容を聞かれた例もあるので、考えの整理と文章での自己アピール能力向上を目指します)。
授業時間外の学習	教員採用試験例題(ネットでskyosai.com)、心理統計の教材(http://kogolab.chillout.jp/elearn/hamburger)など自習教材も適宜紹介予定。教員や公務員への道は厳しいが不可能ではない。聖霊短大在職中に、休日には図書館で謙虚に勉強して現役で本県栄養教諭に採用された者も、ファイナンスプランナー資格取得で地銀就職者も担当。すき間時間にスマホ画面で勉強すれば必ず能力も意欲も高められる。
履修条件 受講のルール	教員希望でない諸君も教員免許を取得すれば塾、法務教官や大学教員(少年院で収容者に中卒、高卒資格授与や大学付属校校長兼務)の採用で有利。教育実習も実習校の生徒本位に履修する気なら教員免許取得を勧めたい。
テキスト	使用しない。毎週パワーポイント12コマの資料を配布、教員ポータルに置いて予習・復習用に準備完了。
参考文献・資料	適宜指示する。
成績評価の方法	定期試験で論述を求めるほか、受講態度(実験や調査実習の参加態度、提出物2件)も加点する。
オフィスアワー	水曜日、講義以外はスクールバス最終便まで6F研究室にいます。メールアドレスは教務課で聞けば良い。
成績評価の基準	秀(100~90点)、優(89~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下) 出席回数が規定に満たない場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、試験を受けることができません。バイト、部活などと授業の時間配分は慎重に・・・
学生へのメッセージ	教員が児童生徒の自尊心を尊重し、個性と平等のバランスを考えてどの子にも活動の舞台を保障する姿勢を示せば周囲から信頼される。スポーツの名監督は気配りと個々の選手への配慮ゆえに個性的な選手も増長せずに全員が一丸となってチームに貢献出来る。教員は合奏の指揮者と同様、学習課題達成と学級維持が基本的課題となるから、これを目標に、生徒の自尊心をも含めた発達、学習/教授と評価、適応と発達障害を学ぶ予定。教員採用試験対策も念頭に映像や基本的な実験と質問紙調査を用いて一緒に学ぼう。手形の秋田大付属図書館で夜10時閉館まで勉強したら当学学生によく会えたが彼らは今、地元教員や公務員。